

# 教職実践演習におけるフィールドワークの展望を探る

## —学生の意識調査より考察する—

### Exploring the Prospects of Fieldwork in Practical Teaching Practice

#### —Consideration from Student Attitude Survey—

柴 ひろ\*・澤 田 愛 子\*\*・久 米 裕紀子\*\*\*

#### 要 旨

今、教師の指導力が大きく求められている。この指導力とは、実際に子ども達を前にして保育を進めていく保育力とも言われる。なぜ今、このような教師の指導力が問われているかを考えたとき、教育界での様々な課題が挙げられるのではないだろうか。例えば、様々な環境に置かれた子どもへの対応や保護者との連携など、教育現場での教師の力量を必要とされている。そのためにも、学生達に学びの場を保障し実践の場に送り出す養成校としての使命を確立することが求められている。

キーワード：体験的学びの場 教師の力量 指導力を高める 実践力の向上

#### はじめに

教職実践演習は、8年前から本大学では、幼稚園教諭免許取得するための教職課程の授業として位置付けられている。文部科学省のこの授業に対する目的は、演習を通して教員としての必要な知識技能の習得及び確認であり、卒業までの学びの総まとめとしている。この授業は4月から現場での実践力を身に付けていくため、学生が大学内外の活動を通して保育の指導力を高めることを目的としている。つまり、この授業の中でのフィールドワークは、学生の学びが大きく期待される活動でもあり、現地でのフィールドワーク体験が、学生にとって実りの多いものにすることが期待される科目でもある。

教職実践演習における、フィールドワークの到達目標をもちながら、125名の学生への学びにつなげていくために、以下のようにフィールドワークを進めた。

#### 1 研究の方向と内容

今回の研究において、フィールドワークのこの授業での位置付け及び目標を明確にし、事前

---

\* 神戸親和女子大学 発達教育学部 児童教育学科 教授

\*\* 神戸親和女子大学 発達教育学部 児童教育学科 教授

\*\*\* 武庫川女子大学 専任講師

指導、当日の活動、事後指導を通して、学生の学び、幼稚園教育への意識付けを考察し、教育実践演習におけるフィールドワークの在り方を探り、今後の展望を模索していこうとするものとする。

内容においては、フィールドワーク後の学生が記入したレポート及びフィールドワークからの学びの統計を調査し、学生のフィールドワークに対する意識と学びの関連を考察していくものとする。

学生のレポートは、活動を振り返って記述するものであり、授業の中では、提出レポートとしている。形式は自由記述であり、フィールドワークでの実際の子どもの活動や教師の援助や環境の構成など、各自が参観しながら気付いた事柄、学びを記述した。

## 2 今年度 教職実践演習の授業概要

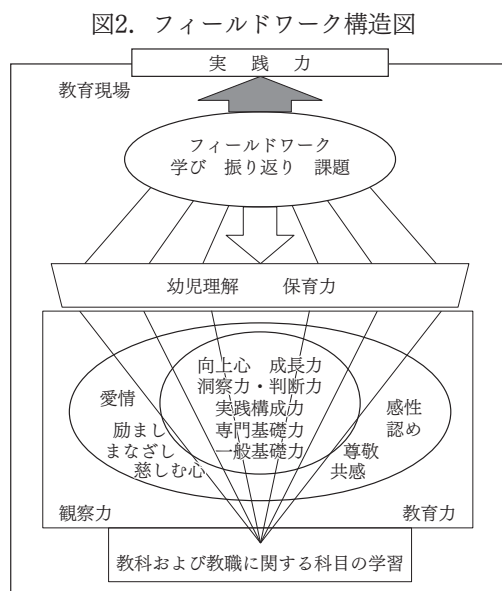
図1. 教職実践演習シラバス

教職実践演習（幼・小）{幼}		科目担当（柴・石岡・澤田・猪田）
<b>【授業の目的】</b> 教科に関する科目及び教職に関する科目の履修状況をふまえ、演習を通して教員として必要な知識技能を修得したことを確認し、不足している知識技能を補う。		
<b>【授業の到達目標】</b> (1) 教育に対する使命感や責任感、教育的愛情を培うとともに、園児や保護者と良好な人間関係を築ける社会性や対人関係構築能力を身に付ける。 (2) 教員に必要な幼児理解と学級経営の理論とスキルを理解し、活動できる。 (3) 大学内外の活動を通して、教育・保育における指導力を高める。		
<b>【授業計画】</b> 1. イントロダクション：履修カルテをもとに各自の向上すべき課題の設定 2. 教員に必要な資質やスキル① 幼稚園教育要領への理解について 3. フィールドワーク事前指導 4. フィールドワーク（各幼稚園） 5. フィールドワーク事後指導 6. 教員に必要な資質やスキル② 学級経営について 7. 教員に必要な資質やスキル③ 保健管理について 8. 幼稚園における保健管理について（ゲスト講師①） 9. 教員に必要な資質やスキル④ 規範意識について 10. 幼児期における規範意識について（ゲスト講師②） 11. 教員に必要な資質やスキル⑤ 幼児理解について 12. 教員に必要な資質やスキル⑥ 特別な支援を必要とする子どもとその保護者について 13. 教員に必要な資質やスキル⑦ 保護者対応について 14. 講話 幼稚園教育と小学校教育の接続について（ゲスト講師③） 15. 振り返りとまとめ		
<b>【評価方法】</b> 授業への取り組み 50% レポート等 50%		
<b>【教科書】</b> 内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社（平成29年6月）適宜プリント等を配布する。		
<b>【準備学習の内容などのアドバイス】</b> 大学での学びを確認し、教員として着任したその日から活用できる知識や技能を身に付ける授業である。主体的・自主的な判断力を基盤とした実践的指導力を付けていく。		

### 3 教職実践演習におけるフィールドワークの位置付け

教職実践演習の15回の授業内容の中でもフィールドワークの位置付けをどのように考えて行くかは、授業を進める上で大切な事柄である。大方美香は、『保育・教職実践演習』の中で次のように述べている。「保育職・教育職は、各養成校における基本的な教科および教職に関する科目の学習が大切である。しかしながら、子どもとの実践力を磨かなければ紙の上の理論に終わってしまう」<sup>1)</sup> (27ページ) つまり、保育者は、教職科目の専門的な知識の上に立った実践力をつけて行くこと、そして、子どもの前でその力を発揮できるようにすることが求められている。そのためには、大方美香は、同じく『保育・教職実践演習』の中で次のように述べている。「自分自身が現場に出向き、実践演習をととして『教育力・支援力』を高めることが大切である」<sup>2)</sup> (27ページ) つまり、「教育力」とは、学生が教育現場(ここでは、幼稚園現場)に出向き、教育力を高めることが大切であり、この教職実践演習で求められるものであると理解できる。

図2に示しているのは、教職実践演習の授業内容の構造化したものである。この図の中でのフィールドワークの位置付けは、教科及び教職に関する科目を経ながら、フィールドワークを通して保育への実践力へつないでいけるように位置付けるものとする。



光生館：保育教職実践演習参考 筆者作成

また、その実践力への到達する手立てとして、記録、振り返りを通して根拠のある教育の質を目指すことでもある。

### 4 フィールドワーク授業概要

昨年と同様にフィールドワークの授業の進め方は、(1) 事前指導 (2) フィールドワーク当日 (3) 事後指導とした。

#### (1) フィールドワーク事前指導

学生は、子どもと関われることを楽しみにしていた。事前指導は、①集合について(リーダーを決める) ②荷物(持ち物等)、服装について ③連絡について ④学びについて ⑤質問したいことについて、各自レポートをまとめ、フィールドワークでの学び、保育者となるための自分の課題を意識できるように促した。教育実習と違い、一園に13名で行くという認識を各自がもてるよう指導していった。

学生用

2019年10月24日(木)

教職実践演習 幼稚園でのフィールドワーク(当日記録用)

学籍番号	A16085	氏名	
幼稚園名	神戸市立東灘区のぞの幼稚園		
教育目標	豊かに遊び学べる子供 (あそぶのぞののぞ、こ) たくましく育つ子供 思いやりのある子供		
園児数	116人	学級数	4

[illegible]

(4才児)

「とんく」で「りす合」の「エロ」  
と落とはないようにするには?  
→ 3才児にも「りす合」の「エロ」  
興味や、探求心など養育  
が出来るようにする

3才児の室  
→ 「とんく」を入れるか「エロ」と同じように  
ひもをつける

「とんく」に入れる

エロ

「とんく」で「りす合」で「エロ」がある?  
エロの「りす合」 → 画面から  
エロの「りす合」 → トイレとエロの「りす合」  
「とんく」 → 紙が「りす合」

学生用

2019年10月24日(木)

教職実践演習 幼稚園でのフィールドワーク(当日記録用)

学籍番号	A16082	氏名	
幼稚園名	芦屋市立小瀬幼稚園		
教育目標	じも体もたくましい幼児の育成		
園児数	42名	学級数	2学級

おめでずとどわい 1 かいはい遊び  
2 壁かへ感じず  
3 自分てあてい行動の椅子  
4 思ひよりあは  
廿年目目景 (5歳児) 友達と遊びを遊んでいて、自分の力を発揮して、  
(4歳児) 自分思いにおいて、友達と一緒に遊ぶことに喜び。  
お玉境 園庭と別には、声屋で行な公園の庭を遊んで、  
自然と身体に感じ、子ども遊び、子ども遊びを遊ぶこと。  
廿五周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
廿六周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
廿七周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
廿八周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
廿九周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
三十周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
三十一周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
三十二周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
三十三周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
三十四周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
三十五周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
三十六周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
三十七周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
三十八周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
三十九周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
四十周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
四十一周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
四十二周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
四十三周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
四十四周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
四十五周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
四十六周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
四十七周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
四十八周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
四十九周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
五十周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
五十一周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
五十二周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
五十三周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
五十四周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
五十五周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
五十六周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
五十七周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
五十八周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
五十九周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
六十周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
六十一周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
六十二周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
六十三周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
六十四周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
六十五周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
六十六周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
六十七周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
六十八周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
六十九周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
七十周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
七十一周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
七十二周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
七十三周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
七十四周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
七十五周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
七十六周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
七十七周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
七十八周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
七十九周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
八十周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
八十一周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
八十二周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
八十三周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
八十四周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
八十五周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
八十六周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
八十七周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
八十八周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
八十九周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
九十周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
九十一周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
九十二周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
九十三周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
九十四周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
九十五周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
九十六周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
九十七周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
九十八周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
九十九周年の合同欠け大木にて遊ぶ。  
百周年の合同欠け大木にて遊ぶ。

図3①、図4②は、フィールドワーク当日、学生が経験したり、学んだりしたこと、また、園長先生の講話、質疑応答などをレポートとして自由形式で記録しまとめたものである。この中から2名のレポートを抽出し掲載する。



写真 芦屋市立小槌幼稚園 フィールドワーク

## (2) フィールドワーク当日

今年度のフィールドワークは、10園に依頼をした。神戸市では、神戸市立東灘のぞみ幼稚園・神戸市立魚崎幼稚園・神戸市立御影幼稚園・神戸市立神戸幼稚園・神戸市立兵庫くすのき幼稚園の5園、芦屋市では、芦屋市立岩園幼稚園・芦屋市立小槌幼稚園・芦屋市立西山幼稚園・芦屋市立潮見幼稚園の4園をお願いした。その他、神戸親和女子大学附属親和幼稚園、合計10園でのフィールドワークを行なった。

各園においては、125名の学生を受け入れていただき、心から感謝いたします。

当日の学生の記録を以下に示す。

今日、フィールドワークに行って、子ども達がとてもものびのびしているなと思った。でも、ただ、好きにしているのではなく、教師の話はしっかり聞いて集団の中で生活している意識があって、子ども達がその子らしく過ごせているのではないかと感じた。また、教師が子どもに関わる姿を見ていて、学ぶこともたくさんあった。教師が一人一人の言葉を全て拾い上げ、ほめたり認めたりしてもらうことで、子ども達も安心し、自分らしく居られるのではないかと思った。教師が子ども達のことを全て認めるように丁寧な関わりをすると、子ども達はこんなに落ち着くのだと気づき、子どもの気持ちを受け止めることの大切さを実感した。また、時間に流されず、子どものその時の気持ちを立ち止まって受け入れていくことで、受け止めてもらえた子ども達は満足そうにしている、とても穏やかだったように感じた。今日のフィールドワークを終えて、私も一人一人を大切にできる先生になりたいと思った。

誕生日会を見学させていただき、とても印象的だったことが、子ども主体となっていることでした。司会も全て子ども達でして、誕生会を進めて、自ら手を挙げて発言している姿がとても印象的でした。また、誕生日の子どもの保護者の方も出席していて、一緒にお祝いをしていました。お家の方からのメッセージというプログラムがあり、それを見た時、本当に子どものことを大切に思う気持ちが伝わってきました。保護者の方の思いはきっと子どもにも伝わっているだろうし、他の子どもにも伝わっていたのではないかと感じました。

3・4歳児の自由遊びの様子を見て園庭に大きな芝生があることに気づきました。後でどのような意図でこのような環境構成にしているのか質問すると幼児期に五感を刺激することは大切なことだと教えていただきました。芝生の上では裸足で遊ぶように促すことで子ども達が直接芝生の感触を感じていることが分かりました。



当日の引率者の記録は次の通りである。

神戸市立兵庫くすのき幼稚園のフィールドワークの内容は以下のとおりである。(当日の引率担当者の記録を基に明記する。)

9:20~10:15 5歳児の誕生会に参加

10:15~11:00 自由参観(3歳児、4歳児、5歳児)

○5歳児の誕生会に参加では、学生達は、子ども達が進行していく誕生会の様子を楽しそうに、また、熱心に参観していた。誕生児の保護者が参加し、一緒にスピーチをしたり、ゲームに参加したりしていることに興味深い様子であった。

○各クラスの遊びや環境等の自由な参観では、3歳児の担任が2年目と聞き、学生達は、保育技術や子どもへの落ち着いた対応等に刺激を受けていた。

○3歳児、4歳児の律動や身体表現を熱心に参観していた。

○園長先生への質問及び感想のまとめ

・誕生会では、子ども達が自由に話し、ざわつくこともあったが、先生の話が始まりそうになるとスーと静かになった。「静かにしましょう」等の先生の発言は一切なかった。自分で考え、自主的に行動する姿が見られた。どういう保育をすればそうなるのか。

日々の生活の中で自分で気付いて動くことを大切にしている。教師は子どもの気付きや行動を見逃さないよう声を掛け認め、育ちにつながるよう努めている。

・3歳児、4歳児クラスでは、ペンギンの表現活動を参観した。一人一人のペンギンの表現がほほえましく創造力が豊かであると感じた。

日々の積み重ねである。子どもが見付けたこと、絵本やお話など小さなことでもなって遊ぶことを大切にしてきた。ペンギンの動きを真似るのではなく、自分がペンギンになって感じたことを表現している。

・その他、配慮の必要な子どものための椅子、園庭の芝生、誕生会進行表の文字について等等、多くの質問や感想がでた。

### (3) フィールドワーク事後指導

事後指導の内容は、以下のとおりである。

・各教員より学生達の学びや参観態度等についての感想を話す。

・学生達は、フィールドワークの学び

- ① 園の特徴
- ② 子どもから学んだこと
- ③ 教師から学んだこと
- ④ 環境から学んだこと
- ⑤ 小学校の接続
- ⑥ 保護者・地域との連携
- ⑦ 教員研修
- ⑧ その他(質問できなかったこと、疑問に思ったこと)について、ワークシート(図5)に記入する。

・記入したワークシートの内容を基に、意図的に当日のメンバーとは異なる6人程度のグループ(20グループ)を構成し、グループワークをする。

図5. 事後のワークシート

2019年10月31日(木)	
幼稚園実践習(幼) フィールドワーク事後指導ワークシート	
学番番号( )	氏名( )
フィールドワーク幼稚園名【 1 】	
フィールドワークでの学び	
① 園の特徴	
② 子どもから学んだこと	
③ 教師から学んだこと	
④ 環境から学んだこと	
⑤ 小学校との接続(連携)	
⑥ 保護者・地域との連携	
⑦ 教員研修	
⑧ その他(質問できなかったこと、疑問に思ったことなど)	
グループで話し合ったこと グループメンバー氏名( )	
今後の課題	

事後のワークシートを分析し、学生が保育を観る視点を以下のグラフで記し、分析していく。

図6. 学生が保育を観る視点 (クラス別)

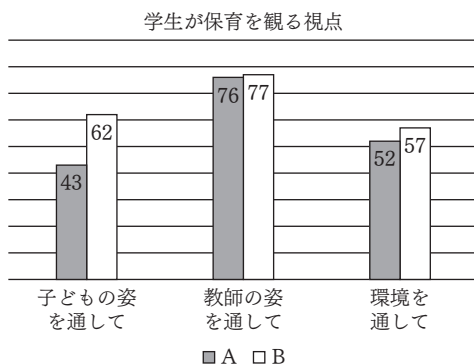


図7. 学生が保育を観る視点 (全体)

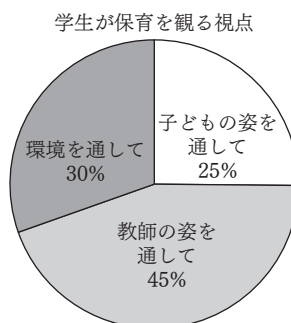


図6・7から読み取れることは、学生はフィールドワークの中で、教師の姿を通して、教師の言葉がけや保育の流れなどを観ていることが分かる、保育の環境構成や園の環境の実際から子どもにとって、環境の広がり、充実の大切さを実感している。

子どもの姿を通して、学生は、子どもの活動のみを観ていることが多い。子どもの楽しんでいる気持ち、何を感じて活動しているのかの読み取りには課題があることが見えてきた。

#### (4) フィールドワークの学びの共有

グループワークでは、各園での学びについて具体的に話し合っていた。

例えば、「片付けの場面でも、教師は一切“片付けましょう”と言わないが、子ども達は、素早く協力して片付けていた。その教師の援助に驚いた。」という発表内容があった。

担当指導教員は、この発表内容を生かして、教師の具体的な援助や片付けにおける環境構成等について、学生が討議していく時間を確保し、より深いグループワークでの学びとなるよう方向付けることが今後の課題である。

##### 子どもから学んだこと

- ・年長児と年少児のペア活動を通して、協同性や責任感、自立心を豊かにすることができるなと感じた
- ・子どもの想像したものから遊びが発展していく様子が印象的だった。様々な遊びが展開していくところが興味深かった
- ・大人がもってしまう固定概念をもたない発想力や柔軟な考え方。友達を思いやる気持ち、優しい気持ち
- ・お化け屋敷があったのですが、それは先生が何か言ったのではなく、家での遊びの延長線で幼稚園で広まりお化け屋敷になった。子どもの発想や行動力の豊かさを改めて学びました
- ・教師の片付けの声を聞いただけで協力し合って片付けをする大切さ。今何をすべきかよく分かっていて自分のやりたいこと、遊びたいことをするために考え、友達と協力しながら達成しているなと思った
- ・名前を呼ばれたら返事をして、立って発言する。周りを見て行動するといった社会に出るための生活習慣が身に付いていた
- ・好きな遊びの中で自分のやりたいことを見付ける
- ・片付けの時、戸外で喧嘩になりそうな子どもがいたけど、1人の子どもが間に入ってうまくできるように考え動いていて、子ども達には考える力があることを学びました

- ・誕生会では友達から素敵な所行ってもらった時間があつた。それはその子どもの自己肯定感を高めることにもつながるし、友達のよいところを見付けられるような心も育まれると思った。
- ・自分が思っていることを伝えたり表現したりする楽しさ

「子どもから学んだこと」から見てきたことは、「主体的な保育」「ペア活動を通しての子どもの育ち」「子どもの発想や行動力の豊かさ」「好きな遊びの意義」「家庭と幼稚園の遊びの連続性」「誕生会の行事から見てくる子どもの育ち」「片付けの意味」など活動の中で、子どもの姿を促している。

#### 教師から学んだこと

- ・先生に必要な力は子どもに学ぶ力を付けさせること。よい先生ほど、答えではなく、ヒントを与え、うまく考えさせることができる。「引き受ける」と「任せる」事の勢いの力が大切
- ・教師が“これをしよう”と大きなねらいを決めるけれど、その中には子ども達が自分達で何をするのかを決めて、子どもの主体性をとても大切にしていることが伝わってきた
- ・子どもがこけたり困ったりしている時、すべてを教師が解決しようとせず、今何を自分がするかを考え、子どもに何を任せると見極めることが大切だということ
- ・遊びの中で先生が思いっきり遊び、楽しんでいる姿が見られた。子ども達が笑顔になるためには、まず、先生からということが大切だと感じた
- ・子どもに投げかけ返ってきた言葉をしっかり受け止めることが大切(朝の会)。子どもへの個別対応(集団で行動できない子)
- ・全て教師がするのではなく子ども達が自ら考え行動できる声かけが多く見られ、子ども達の主体性を大切にしている
- ・子どもに対し否定的な言葉を使わず、褒めることなど肯定的な言葉かけで関わり、子ども達を常に受け止める保育をされていた
- ・子どもとの信頼関係がしっかりできているため、子どもが落ち着いて、保育者の話を聞くことができていた
- ・子ども達が自らの意思で主体的に遊びを行えるよう見守っていた。子ども同士のトラブルを子ども達だけで解決できるよう働きかけ、学びにつなげていた

「教師から学んだこと」から見てくることは、「子どもの主体性を大切にする援助」「子どもの行動を肯定的に受け止める大切さ」「子どもが困っているときの援助」「子どもとの信頼関係の重要性」「子ども同士のトラブルにおける援助」「教師の言動が子どもの遊びや生活にモデルとなっていること」が、学生の受け止めたことが読み取れる。

#### 環境から学んだこと

- ・近くに大きな公園や園内の庭(果樹園)、畑があり、自然と関わりやすい環境にある。絵本の部屋もあり、気軽に本を楽しめる。部屋には作品も飾るようにしている
- ・壁面に子どもの活動の写真を貼ったり、作品を貼ったり、目で見てすぐ分かるようにしていたのが良い。自然や動物が多く、すべてのものにネームプレートがついていた。名前を知ったり興味が広がったりすると思った
- ・園内で四季を存分に感じることができる。様々な果実があつたり、野菜を育てたりすることで思いやりの心が育つように大人でもワクワクするような園庭で、クラスからすぐに園庭に出られるので、つながるなと思いました
- ・池があり、その池から命の大切さを学ぶ。宇宙の入り口、子どもが覗くと普段見えていないものが見付けられる
- ・遊びが深まるように、必要な材料やハサミ等が用意されていることで、子どもがしたい的に遊びが広がる工夫があつた
- ・動物を世話することで命の大切さや心の癒しになることがあるいろいろな感情が生まれる
- ・豊かな自然の中で遊ぶことによって自然と虫などの生き物に触れ、こんなふうに遊んでみたいと興味



が広がるということを学びました

- ・子どもが生き物に興味を持ち触れ合えるように、各保育室周辺に様々な生き物を飼育している（ウサギ、リス、カメ、ザリガニ、カマキリなど）
- ・子どもが興味を持っているものを掲示することで探究心が芽生え、主体的に調べるなどの行動につながる

「環境から学んだこと」から見てきたことは、「四季を存分に感じる園内環境の工夫」「動植物の世話を通して、子ども達が命の大切さや思いやりの心等を学んでいること」「空間を利用した壁面の工夫」「子どもの活動の写真や作品を貼り、可視化することの大切さ」「遊びが深まるように教材の出し方や置き場の工夫」「園内にある池が子どもの遊びにとっての意義」から、教育現場での環境の大きさを実感している。

#### (5) フィールドワークの成果

- フィールドワークにおける学生達の学びの最大の魅力は、フィールドで実感を伴って学べることである。例えば「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や主体的に活動する等の授業での学びと実際の子どもの姿とつながる瞬間でもある。
- 学生達は様々な感覚を通して学び、訪問した幼稚園の雰囲気や子ども達との触れ合い、目の前で見る教師の援助や環境の構成等、見たり、触れたり、聞いたりするなどして学んでいる。
- フィールドワークは、フィールドで出会う人（子どもや教師等）の見方や考え方に触れる貴重な場でもある。例えば、I 幼稚園の園長講話の中で「池も生きている。池は宇宙の入口で、メダカ、ザリガニなど人間とは異なる生き物が見える。命に触れる場である・・・」の助言から、環境の大切さや価値に気付けた。
- 事前指導の成果もあり、学生達はフィールドワークでのエチケットや公共のマナーなど4月からの社会人としての在り方を身に付けるよう意識をもつてのぞんだ。  
このようにフィールドワークは、学ぶ意欲や関心を高め、学びを深めるためにも有効である。

#### (6) フィールドワークの課題

- フィールドワークで何を学んだのかを学生一人一人が振り返り、自己の保育実践力を向上させるための課題意識をもつことができる授業の展開が求められる。そのためには、事前指導で、フィールドワークでの経験を、事後指導までに一人一人の学生が自分なりに学びをまとめようように指導することが重要である。
- 事後指導でフィールドワーク参加園のまとめの発表を聞く時間を確保することも、学生達にとっては、他園との共通点や違いを把握したり、新たな自分自身への課題を発見したりする機会になった。より深い学びにつなげていく必要がある。事後指導のグループワークのあり方として、指導者は、発表の時間の確保や学生の記録した1つの事例から、深い気付きへと全体に意識付けるための討議の柱立て、学生の学びを見極め、学びを共有させていく指導力が問われる。

## 5 教職実践演習でのフィールドワークの今後の展望

2008（平成20）年の中央教育審議会答申『今後の教員養成・免許制度の在り方について』では、教員として求められる4つの事項を含めることが適当とされている。

- ① 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項
- ② 社会性や対人関係能力に関する事項
- ③ 幼児児童生徒理解や学級経営に関する事項
- ④ 教科・保育内容等の指導に関する事項

その2項には、「授業方法については、役割演技（ロールプレイング）やグループ討議、事例研究、現地調査（フィールドワーク）、模擬授業等を取り入れることが適当である」<sup>3)</sup>と明記されている。

今年度も実践的な指導力の育成を求めて、フィールドワークを実施し、学生にとって、フィールドワークは、まさに体験的学びの場であることを痛感した。教育実習とは違い、一緒に参加した学生同士が、事例を通して、グループワークをし、討議し合い、学びを共有することができる体験の場である。この共有こそが、実践力の向上へとつながっていく。

現場の教師や子ども達から生きた保育を学び、学生は、教師の力量の大切さ、指導力の必要性を痛感していることが分かった。そして、このフィールドワークが、4年生の秋学期の時期にだからこそ、この体験的学びの場が生きてくるのである。現場で、瞬間瞬間に子どもと向き合う教師の思いが伝わってくる生きた保育を学ぶフィールドワークを今後も、更に教職実践演習の中で活性化させ、学生の確かな学びへとつなげていくことが教員の責務である。

### おわりに

本論では、「教職実践演習」の中でのフィールドワークの展望として、学生の実践、実際の現地調査（フィールドワーク）の学びを中心に述べてきた。この論文を通して、フィールドワークの学びを学生一人一人が教師として身に付けていくためには、単にフィールドワークを含む授業だけにとどまらず、学生が4年間の総まとめとしての上に立ったフィールドワークであるということを学生自身が意識し、自覚してのぞむようにしなければならない。担当指導教員間でそのことを踏まえて、連携していくことは言うまでもない。そのためには、毎年の学生の意識の実態を見極めながらの授業展開、そこに何を求め、何に価値をおくか、学生に身に付いているものは何なのかを常に探求していく必要性を実感する。与えられた時間の中で創意工夫した授業展開を目指し、現場力を学生自身が強く感じ、受け止めて、学んでいく機会を生かすよう指導していく必要性を感じる。現場の保育者や子ども達から、保育の楽しさ、保育の面白さ、保育にかける思いに触れることが大切である。

座学で学んだ専門職としての学び、基礎が土台となり、フィールドワークで教師としての実践力、資質能力に対しての前向きな意欲を育てたい。

## 引用文献

- 1) 小田豊・神長美津子編著『保育・教職実践演習』光生館 2013年 pp27
- 2) 小田豊・神長美津子編著『保育・教職実践演習』光生館 2013年 pp27
- 3) 文部科学省『今後の教員養成・免許制度の在り方について』答申 2013年（2019年11月21日）

## 参考文献

- 小原敏郎・神蔵幸子・義永睦子編著『保育・教職実践演習』建帛社 2013年
- 小田豊・神長美津子編著『保育・教職実践演習』光生館 2013年
- 文部科学省『今後の教員養成・免許制度の在り方について』答申 2013年
- 石井英真・渡邊洋子編著『教職教養講座第15巻 教育実習 教職実践演習 フィールドワーク』協同出版  
2018年